ティーチング・ポートフォリオ

大学名 ： 湘南医療大学
所　属 ： 保健医療学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻
名　前 ： 中尾　陽光
作成日 ： 2025 年 5 月 1 日作成

1.　教育の責任

私は下表のとおり、担当する科目は全学年および大学院に関わっている。本学では、とりわけ運動器系理学療法に関する知識面、技能面を指導する責任を有している。そのうえで、演習科目、実習科目を担当しており、理学療法士になるための必要な教育を行っている。さらに、自身の専門分野であるスポーツ理学療法および障がい者スポーツに関しては、「スポーツ理学療法学（選択科目）」と「障がい者スポーツ概論（自由科目）」を立ち上げている。「スポーツ理学療法学」では、実際にスポーツ選手などに指導することを想定し、まず学生自身が実践できることが重要であると考え、プログラムしたメニューを体験・実践することで講義を展開している。「障がい者スポーツ概論」では、日本パラスポーツ協会の認定を受け、「初級パラスポーツ指導員」資格の付与を行っている。講義では実習として、実際に障がい者施設で、障がい者と触れ合いながらスポーツを実践する実習を展開している。

委員活動では、学内で学生支援委員、専攻内で臨床実習・国家試験対策などの委員を務め、さらにおよび専攻内の実習 OSCE のとりまとめを行っている。学内ではフットサルサークルおよび運動指導研究会の顧問として活動している。

担当科目（大学院・専門科目）

科目名	領域	課程	必修/選択	年度
運動機能回復学特論	心身機能回復領域	修士課程	選択	2019年度～
運動機能回復学演習	心身機能回復領域	修士課程	選択	2019年度～

担当科目（専門科目・基礎理学療法学領域の科目）

科目名	学科/専攻	学年	必修/選択/自由	年度
理学療法学教養基礎	理学療法学専攻	1	必修	2020年度～
理学療法概論演習	理学療法学専攻	1	必修	2015年度～
理学療法研究法演習	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
理学療法卒業研究	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（専門科目・理学療法評価学領域の科目）

検査測定学演習	理学療法学専攻	2	必修	2016年度～
運動器系検査測定学	理学療法学専攻	2	必修	2016年度～

担当科目（専門科目・理学療法治療学領域の科目）

運動療法学基礎演習	理学療法学専攻	2	必修	2019年度～
運動器系理学療法学演習	理学療法学専攻	3	必修	2020年度～
理学療法学特論Ⅰ	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
理学療法学特論Ⅱ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（専門科目・専門共通科目）

科目名	学科/専攻	学年	必修/選択/自由	年度
スポーツ理学療法学	リハ学科	3	選択	2017年度～

担当科目（専門科目・臨床実習科目）

見学実習	理学療法学専攻	1	必修	2015年度～
評価学実習	理学療法学専攻	3	必修	2017年度～
地域ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ実習	理学療法学専攻	3	必修	2022年度～
総合臨床実習Ⅰ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～
総合臨床実習Ⅱ	理学療法学専攻	4	必修	2018年度～

担当科目（総合教育科目・人間とコミュニケーション領域の科目）

チーム医療	リハ学科・看護学科	4	必修	2018年度～

担当科目（自由科目）

障がい者スポーツ概論	リハ学科	2～3	自由	2023年度～

過去の担当科目（湘南医療大学での科目）

科目名		該当学年	必修・選択	年度
運動学演習	理学療法学専攻	2	必修	2016～2021年度
ｸﾘﾆｶﾙﾘｰｽﾞﾆﾝｸﾞ論	理学療法学専攻	3	必修	2017～2022年度

2. 私の理念・目的

1) 私の理念

私は理学療法士を養成する大学の教員として3つのことを大切にし教育を行っている。

一つ目は、理学療法士となるための学修の重要性を理解してもらうことである。学生には、自身の不勉強であることが、将来自身が担当する患者様を不幸にする可能性があると伝えている。優しさだけでは患者様を治療していくことはできない。医療を目指す学生として、常に患者様のために一生涯学修し続けなければならないことを伝えている。

二つ目は、学生が将来理学療法士となった際に、どんな患者様も安心して任せられるような理学療法士になるように育成することである。それは知識・技術面はもちろんであるが、患者様に対して敬意と優しさをもって接することができ、家族も含めて適切な対応できるようになってもらうことである。そのためには、患者様や家族としっかり向き合って問題を解決できるように、常に自ら考えて行動することが大切であると指

導している。

三つめは本学を卒業する際、本専攻で学んだことを誇りに思えるようにすることである。理学療法士の養成校はたくさんあるが、本学を選んで入学してくれた学生には、その思いに答え、一人一人と向き合いたいと考えている。時には厳しく指導するが、その学生の成長のための指導であると理解してもらい、学修面以外に理学療法士となるためのマインドをしっかりと吸収して卒業してもらいたいと考えている。

2) 理念をもつに至った背景

自身が病院で理学療法士として患者様を担当していた際、自身が担当しているよりも、他のベテラン理学療法士が担当していた方がもっとよくなっていたのではないかと非常に悩み苦しんだ経験があった。その経験から、自身の不勉強を悔やみ、自身の不勉強は患者様を不幸にすることがあると感じた。そのつらい経験を学生がしないように、その経験を伝えるようにしている。私自身の親でも安心しても任せられるような、知識・技術とそして患者様に向き合えるマインドをもった理学療法士を育成したいと強く思うようになった。

3. 教育の方法・戦略

私の教育方針としては、学生が理学療法士の資格を取得し臨床現場に出た際に、今学んでいることはどのように活かされるかという視点を重視することである。

【講義】

講義では、覚えなければならないことが多いが、ただ覚えるだけでは定着しづらい。そのため、今学んで覚えた知識が、どのような場面で活かされるかを伝え、その状況がイメージしやすいようにしている。またその知識を得たことによって、教員自身がどのような状況で、良かったのか、悩みを解決できたかなど、より具体的な経験を伝え、身近に捉えられるようにしている。さらに、学生自身がどのように活かすことができるのかを自分の立場に置き換え、自分で考える時間を大切にして展開している。

【演習・実技】

講義で学んだことが、実技にてどのように使うことができるかを最大のポイントにして指導している。解剖学・生理学で学んだこと、運動学で学んだ基礎知識を実技でどのように考え、実践していくかを学生自身で考えられるように促している。

また、実技の中で臨床医学で学んだ疾患・病態をイメージして、どのように実技を展開していくべきかということも、臨床経験を伝えながら行うようにしている。さらにこれらの実技授業をもとに、臨床実習等でどのように活用していくのか、何を気を付けて行っていくべきかなどを、常に考えながら授業を展開するように考えている。演習・実技では、成功体験ができるように誘導するようにしている。この小さい成功体験から理学療法の面白さ、楽しさを感じることができ、さらに次のステップへの成功を獲得するための努力において、理

学療法の奥深さを理解することができると考える。

【自己研鑽】

私の教育方針では、教員自身の経験が非常に重要になっている。そのため、現在も現場に出て、多くの経験を積み重ねるようにしている。特に私はスポーツ理学療法を専門としているため、大きなスポーツ大会のメディカルスタッフなどでサポートを積極的に行い、それらの経験を講義の中で伝えるようにしている。

このように教育を展開していくことを心掛けている。

4. 学習成果

・スポーツ理学療法学（選択科目）：科目履修学生

➢2019 年度 36 名、2020 年度 42 名、2021 年度 38 名、2022 年度 30 名、2023 年度 32 名、2024 年度 32 名

⇒選択科目であるが、大半の学生が科目を履修している。

・障がい者スポーツ概論（自由科目）：科目履修学生

➢2023 年度 42 名、2024 年度 28 名、2025 年度 32 名

⇒卒業単位に関わらない自由科目であるが、多くの学生の科目履修がある。

・授業評価アンケート

➢実技中心の授業であるが、その意義・活用方法を的確に示してくれているので非常に理解いやすい。

➢臨床での実体験を通した授業展開であるため、とても興味深い授業である。

5. 改善のための努力

教育方法の改善のために、私としては以下のような努力を行っている。

・講義終了後に、成績と関係ないとして、授業の良かったところと悪かったところ・わかりにくかったところ・改善しほしいところを自由記述で記載してもらうようにしている。

・各期に大学が行っている授業評価アンケート結果において、ポイントが低かった項目については、次年度に具体策を立て、必ず改善行うようにしている。また改善の要望があった点についても、必要に応じて対応策を立てるようにしている。

6. 今後の目標

【短期目標】

理学療法学専攻の学生は、国家試験合格という明確な目標がある。しかしながら、国家試験合格のための学修となりやすい。そのため、国家試験は重要ではあるが、将来理学療法士として活躍するための通過点という視点を伝え、より臨床現場で有効となる知識・

技術や体験を伝えていくことを行っていきたい。そのため、授業システムや教材を 3 年以内に構築していきたい。

【長期目標】

理学療法士は、卒後進路が病院・クリニックが大半となる。しかしながら、私自身の専門分野を活用して、理学療法士の職域拡大に寄与したい。最終的には、学校保健領域やスポーツ領域での理学療法士の定着をさせるよう、職域拡大の活動を行っていきたい。